

アレルギー反応発現！！

食物の関与

食べた

触れた

呼びかけに反応なく、呼吸がなければ、心肺蘇生を行う！

<緊急性の高いアレルギー症状>

全身の症状

- ぐったりしている。 意識朦朧である。
- 尿や便をもらす。 脈が触れにくい・
- 唇や爪が青白い。

呼吸器の症状

- のどや胸が締め付けられる。
- 声がかすれる。 息がしにくい。
- 犬が吠えるような咳をする。
- 強い咳き込みが続く。
- ゼーゼーする呼吸をする。

消化器の症状

- 我慢できない腹痛がある。
- くり返し吐き続ける。

一つでも当てはまる場合は、緊急性の高いアレルギー反応対応へ <下の水色部分へ>

迷ったら、エピペンを注射する！

A

発見者 <観察>

- 子どもから離れず観察
- 助けを呼び、他の教職員を集める。
- 教職員Aと教職員Bに「準備」と「連絡」を依頼する。
- エピペンの使用または介助を行う。
- 薬の内服を確認する。
- 心肺蘇生やAED使用を行う。

教職員A <準備>

- 本マニュアルを持って来る。または、ある場所から取り出す。
- エピペンを準備する。 AEDを準備する。または、要請する。
- エピペンの使用または介助を行う。 心肺蘇生やAED使用を行う。

教職員B <連絡>

- 救急車を要請する。(119) 校長、教頭、教務を呼ぶ。(内線等)
- 保護者へ連絡する。 さらに教職員を集める。(校内放送等)

校長・教頭 <管理>

- 役割の確認
- 役割の指示

教職員C <記録>

- 観察を開始した時刻を記録する。
- エピペンを使用した時刻を記録する。
- 内服薬を飲んだ時刻を記録する。
- 5分ごとに症状を記録する。

教職員D~複数 <誘導・その他>

- 他の児童へ対応する。落ち着かせる。
- 救急車を誘導する。
- エピペンの使用または介助を行う。
- 心肺蘇生やAED使用を行う。 他

B 緊急性の高いアレルギー症状への対応 5分以内で判断！！

エピペンの使用方法は「裏面」

- C 直ちにエピペンを使用する。 → 2. 直ちに救急車を要請する。
- 3. 反応や呼吸がなければ、直ちに心肺蘇生を行う <AEDの使用も> → 4. 救急隊の到着を待つ。

その場で安静にして、決して立たせたり、歩かせたりしない！！ <徹底厳守！！>

ぐったり、意識もうろうとしている場合の安静を保つ体位



- 血圧が低下している可能性があるため、仰向けで、足を15cm~30cm高くする。

吐き気や、おう吐症状がある場合の安静を保つ体位



- おう吐物による窒息を防ぐために、体と顔を横に向ける。

呼吸が苦しく、仰向けになれない場合の安静を保つ体位



- 呼吸を楽にするために、上半身を起こして、後ろに寄りかからせる。